

事業名	「アジアの架け橋 沖縄スリランカプロジェクト」 ～「命と平和」を未来へ～
施期間	平成23年10月22日(土)～31日(月)
担当者	企画指導専門職 北岡 哲 治



I 事業コンセプト

海に囲まれた島、内戦（戦争）、継承された特色ある芸能や文化、温暖な気候に育まれた生活様式等、沖縄と共通する多くの環境や文化をもつ国スリランカ。このような両国の中学生が「命と平和」を育んできた歴史や文化を語り合い、学びあい、未来へつなぐアジアの架け橋として国際的視野に立ち活躍できる青少年の育成を図る。

II 事業の概要

1 事業の目的

『～「命と平和」を未来へ～』をテーマに地域性や立地条件を生かした自然体験活動等をとおして、環境と自然の関わりについて理解を深めるとともに文化体験、生活体験、授業体験等の交流体験を行い、沖縄文化の理解を図る。また、沖縄の大学生をチューターとして事業に参画させ、中学生の交流活動を企画・運営することで日本と諸外国の子ども達の様子や考え方等に触れ異文化理解と未来への展望を深め、国際的視野に立った思考の醸成を図りアジアの中核を担う次代リーダーを養成する。

2 参加対象及び募集人員

「沖縄スリランカ友好協会」をとおして、スリランカの公立中学生20名（スリランカの教育システムでは9年生、10年生 年齢14～16歳 男女10名づつ）対象に招聘する。

3 参加状況 20名

スリランカの男子中学生10名、
女子中学生10名

4 実施上の留意事項

- (1) 宿泊は、青少年教育施設及びホームステイとし、日本の文化を味わってもらう。
- (2) 沖縄の大学生をチューターとして事業に参画させ、中学生の交流活動を企画・運営しながら日本と諸外国の子ども達の様子や考え方等に触れ、異文化理解と未来への展望を深め、国際的視野に立った思考の醸成を図りアジアの中核を担う次代リーダーを養成する。
- (3) プログラムの一つ一つに「命と平和」というテーマに迫る内容を計画し、招聘国の子ども達が自国に帰りメッセンジャーとなり学んだことを多くの青少年に伝えることができるよう工夫する。

5 活動の様子

1日目<10月22日(土)> 移動日



≪お揃いの制服で那覇空港到着≫

2日目<10月23日(月)>首里城見学他



《“沖縄”といえば、まずは首里城見学》

3日目<10月24日(火)>渡嘉敷島へ移動し、渡嘉敷中学校との文化交流会 他



《渡嘉敷中学校との文化交流会》

4日目<10月25日(火)>国立沖縄青少年交流の家→同 海洋研修場→ビーチコーミング→渡嘉敷港→泊港→沖縄県青年会館



《トカシクビーチでの海洋研修》



《渡嘉敷港での感動的な別れ》

5日目<10月26日(水)>沖縄県青年会館→那覇市立金城中学校→ホームステイ



《金城中学校での初めての給食体験》

6日目<10月27日(木)> ホームステイ→金城中学校→ホームステイ



《金城中学校での授業体験》

7日目<10月28日(金)>ホームステイ→金城中学校→普天間、嘉手納基地見学→沖縄美ら海水族館→県立糸満青少年の家



《ホームステイ先から登校する様子》



《感動の沖縄美ら海水族館見学》

8日目<10月29日(土)>平和祈念公園→自由行動→さよならパーティ



《平和祈念公園にて、平和への祈り》



《キャンディダンスの衣装で
スリランカ中学生》

9日目<10月30日(日)>

移動日。糸満→那覇空港→羽田空港→東京へ



《東京にて日本最後の夜のふりかえり》

10日目<10月31日(月)>

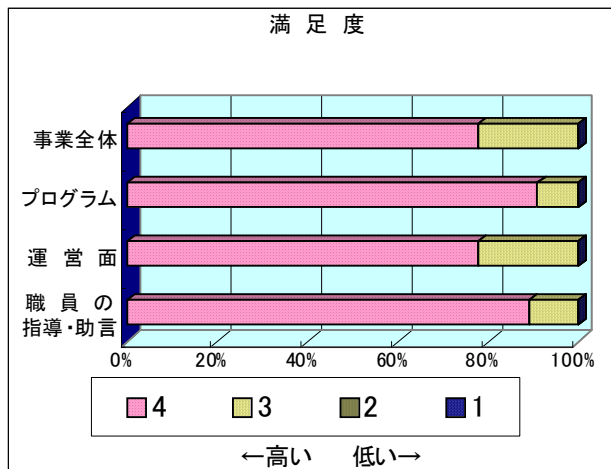
移動日。東京→羽田空港→スリランカへ



《最終日の朝、満足した表情で帰国》

6 アンケートの結果

(1) 満足度



(2) 参加者の声 (英語を和訳)

《良かった点》

○このプログラムでたくさんのことを学ぶことができたし、私の人生の中でいいものを得られた。

○時間は短かったけれど、たくさんの経験ができた。私たちは首里城、美ら海水族館、沖縄の基地を見た。このプログラムはスリランカと日本のつながりの助けになるだろうし、私たちの未来にとって貴重なものだ。

○とても満足しています。二度と忘れません。このようなツアーはどこにもないでしょう。このような機会を得られて、とても幸運です。

○日本とスリランカのチューターはいろいろ手伝ってくれた。沖縄のスタッフは親切だし、優しくかった。この機会を与えてくれたことに感謝したい。スタッフの苦勞なくして、教育的な意味のあるこのツアーの成功はなかったと思う。

○中学校に行ったとき、彼らから時間どおりに勉強することを学んだ。スケジュールの組み方はとてもよかった。

○とても満足しています。

《改善すべき点》

▲とてもあたたかい歓迎をうけたけれど、プレゼンテーションは、準備したものが機器の調整がうまくできず、満足しませんでした。

III 成果と課題

1 事業の成果

(1) スリランカからの参加者の語学力、意欲が高く、渡嘉敷中、金城中の生徒との交流が活発で、国を超えた親密な友情が見られた。

(2) 「命と平和」を未来へというテーマのもと、平和学習やディスカッションを行い、自国と他国の平和について理解を深めているのが感じられた。

(3) ホームステイ後のスリランカの中学生の表情が生き生きとして、楽しかったという声が多く聞かれた。

(4) 最終日、那覇空港に多くのホストファミリーが見送りに足を運び、写真を撮ったりして、感動的な別れであった。

2 今後の課題

(1) 10日間の日程について、ゆとりをもたせ入念な時間配分や内容吟味が必要である。

(2) 宿泊先が転々として何度も大きい荷物を持って移動した。県内での8泊中、4回宿泊場所が変わっているのもっと少なくしたほうがよい。

IV おわりに

事業実施では、地域性や立地条件を最大限に活用するにあたり「沖縄スリランカ友好協会」の全面的な協力のもと、企画委員会を立ち上げ、大学との連携、有識者のアドバイス等により事業を実施することができた。

また、招聘国の中学生との交流また、チューターとして琉球大学で学んでいるスリランカの留学生や沖縄大学の日本人学生の交流をとおして次代を担う人材の育成、国際的視野に立った思考の醸成等を図ることができた。

今回の参加者が、「命と平和」について学び文化の交流をとおして感じたことを、母国で発信するとともに、これを機にさらに両国の友好を深めることができるよう、今後もこの事業を継続して実施したいと考える。